

海上を勢いよく疾走する
ペーロン船=31日午後、
相生湾(撮影・大森 武)

初夏の海 駆け抜ける竜



西播磨の初夏を彩る相生市の「相生ペーロン祭」は31日、ペーロン競漕で最高潮を迎えた。爽やかな初夏の空の下、竜に見立てた木造船が相生湾を力強く駆け抜け、約4万人(主催者発表)の観衆が声援を送った。

相生ペーロン競漕

ペーロンは紀元前3世紀の中国が起源とされ、相生では1922(大正11)年、故郷を懐かしむ長崎県出身の造船所作業員が始めたとされる。競漕では、32人乗りの船が約300mの直線コースを1往復または1往復半して速さを競う。

今年は、兵庫県内外から学生や社会人など計69チームが出場。太鼓と銅鑼が刻むリズムに合わせて水上の熱戦が展開され、岸から大きな歓声と拍手が湧き起こった。

(杉山雅崇)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【 】

① ペーロン船は、何に見立てたものですか？

② 相生市でペーロンが始まったのは、何年ですか？

③ 競漕では、何人乗りの船で競うのですか？また、およそ何メートルで競いますか？

人乗り

約

m

m

④ この記事を読んだ感想を書きましょう。